●漢字の国際化で世界は変わる

世界でいちばん漢字が学習しにくいはずの日本人が立派に漢字を使いこなしているのですから、漢字が使いこなせないという民族は、世界中に存在しない、と私は確信しています。

そこで、そのことを証明するためにも、ぜひ挑戦してみたいと思っていることがあります。それは、ほとんどの国民が文盲というような文化的にも未発達な国で、私の考えに共鳴してくれる若者に集まってもらい、その国の幼児たちに漢字教育を実践することです。もちろん、漢字は、その民族の言葉で読んでもらうのです。そうすれば、幼児たちは必ず漢字を理解し、自分たちの使っている言葉でそれが読めるようになるはずです。

また、そればかりでなく、日本人の子どもが漢字で日本語を学ぶことによって知能が伸びていくように、彼らの頭脳もまた、どんどん発達していくはずです。

実際、“鳩”、“鶴”といった言葉を英語の表記 pigeon、crane で学習した英米人の子どもたちは、まだ習っていない hawk、eagle といった単語を見せても、まったく知的反応が起こりませんが、“鳩”が pigeon、“鶴”が crane と漢字で教えると、はじめて見る“鷹、鷲”といった漢字にも知的反応が起こり、鷹が hawk であり、鷲が eagle であることを教えられればすぐに覚えられる、ということが確かめられています。

つまり、四つの漢字に共通する“鳥”という部首から、未習の“鷹、鷲”も「鳥の仲間ではないか？」という推理や分析の力が自然に芽生えるのは、日本語を母国語としない子どもたちでも、まったく同じなのです。

そして、漢字で母国語を学んだ子どもたちの中から、多くの優秀な人材が育ち、その国の発展の原動力となれば、世界中の人々が漢字に注目するようになるに違いありません。

そうした状況の中で、英米人やドイツ人、フランス人、そして世界のいたるところで「自分の国の言葉を漢字で読んでみよう」あるいは「子どもに漢字で母国語を学ばせてみよう」という人が次第に増え、さらには「漢字を国際文字に」という声が、世界のあちらこちらから上がるようになったら、どんなに素晴らしいことでしょう。

私たちが、どんなに英会話に熟達しても、それだけでは決して英米人を深く理解することはできません。その逆に、英米人が日本語を流暢（りゅうちょう）に話せるようになった場合も、また然りです。

ところが、世界中の人々が漢字を自分たちの言葉で読めるようになれば、世界中の国々の人々が書いた漢字の文章の意味が、（たとえ外国語がわからなくても）誰にでも理解できるようになるわけです。

世界中の人々が、お互いに相手を深く理解しない限り、誤解が生じ、紛争が絶えないと思います。世界の平和は、すべての民族がお互いに深く理解し合えて、はじめて可能です。

現在のように、お互いを深く理解する手段をもたない限り、いくら口で平和を唱えても平和は得られません。

しかし、漢字の国際化が実現すれば、世界中の人々がもっとお互いを深く理解し合うことができるようになり、無用の誤解や悲惨な流血も避けられるはずです。世界中に、漢字という“種”を蒔き、世界中に平和という“花”を咲かせる――これが私の大きな夢であり、願いでもあるのです。